

国際学会発表海外派遣報告書

理学研究科 高分子科学専攻 青島研究室 D2 瀬野 賢一

学会名(期間、場所)

- 1st European Chemistry Congress (27, August-1, September 2006 Budapest, Hungary)

私はインタラクティブ大学院教育の一環である国際学会発表海外派遣支援プログラムにより、2006年8月27日から9月1日までハンガリーにて開催された、1st European Chemistry Congressに参加いたしました。本学会は、ヨーロッパにおける大規模な化学の学会ということで、高分子関連だけでなく他の様々な分野の方々も世界各国から多数参加し、ディスカッションを行いました。会場も非常にきれいで、また coffee break の時間も多く設けられており、ゆったりと会を楽しむことができました。今回はさらに、通常の講演のみならず、招待講演としてノーベル賞受賞者の講演も多数行われ、非常に盛況でした。

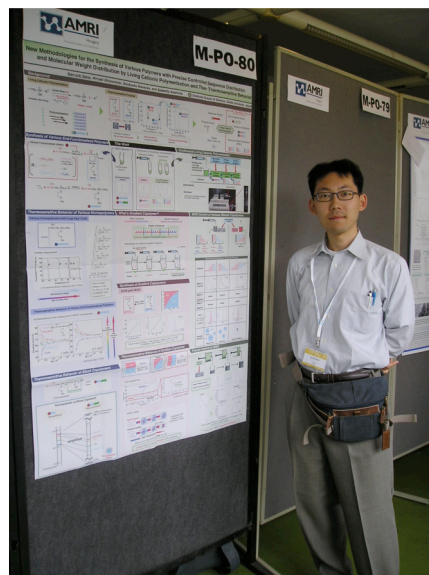
私は今回、ポスター発表もさせて頂いたのですが、その場においても有意義な時間を過ごすことができました。私の発表に来て頂いた方々には、私の発表に興味を持って頂いたこと、私のつたない英語に対し理解を示そうとしてくだ

さったことなど様々なことに感謝するとともに、こちらとしてもそのディスカッションを通じて、研究のことのみならず、英語での表現方法など数々のことを学ばせて頂きました。

また、今回はその行われた場所も、ハンガリーの首都ブダペストという非常に心地の良い環境でした。朝は数々の芸術的な彫刻や像が組み込まれた街並みを堪能しながら、トラムという路面電車に乗って学会会場まで赴き、夜はドナウの真珠と呼ばれるハンガリーの夜景に感動し、帰路につく。さらに、おいしい食事に恵まれての生活。このように、生活面において学会に支障をきたすような要因は全くなく、快適に過ごすことができました。

私は今回で2度目の海外での発表になるのですが、海外に行ったことは非常に良い経験になっていると考えています。海外での滞在を通じて、異なる言語、異なる文化、異なる環境など違うものに触れること、海外における英語での発表経験など、行ったことすべてが良い経験だと考えています。しかしながら、私たち学生にとっては、このようなことを望んだとしても経済面からなかなか難しいということも少なくありません。以上のことから、今回の支援プログラムは非常に有意義で、重要なものであり、かつ、私自身非常にプラスになったと感じております。今後、このようなプログラムを通じて海外に行くことができる学生が増えることを願うばかりです。

最後になりましたが、このような機会を与えていただいたインタラクティブプログラム、またその他様々な面でサポートいただいた青島先生、金岡先生他、様々な方々に心より感謝致します。



学会会場にて